

(2) 個々の伝承活動の企画・設計

伝承活動のシナリオに基づいて伝承活動を行う際の企画・設計のポイントを以下に示す。

表 12 伝承活動の企画・設計ポイント

項目	内容	ポイント
① シナリオに基づき実施内容を決定する	・ 開催主体を決定	・ 地域における既往の行催事の実施予定、内容を考慮
	・ 連携できる団体・人物との事前調整	・ 伝承するテーマや内容に応じて、対象団体・人物を選定 ・ 連携の形態（共催、後援など）についても検討 ・ 伝承活動を実施する主体となる団体・人物の意識向上が図られることも重要であり、授業実施前に意識向上を図ることを検討する。
	・ 実施日程、場所、回数の決定	・ 複数回実施するものについては、実施回数と流れ、各回の内容についても検討 ・ 開催場所を考慮に入れた開催時間を設定
	・ 伝承手法の検討	・ P. 71～72 の伝承手法の中から使用する手法を検討 ・ 連携できる団体・人物との調整結果を考慮 ・ 複数手法の組み合わせによる伝承活動効果の向上も考慮
② 実施計画書を作成する	・ 実施プログラムの作成	・ 当日のタイムスケジュール、役割分担の検討 ・ 屋外での伝承活動を実施する場合は悪天候時の場合の対処（実施内容の変更等）を検討
	・ 参加方法の検討	・ 自由参加もしくは登録制など
	・ 参加者募集方法の検討	・ 参加者募集方法（機関紙、チラシ・ポスター、ホームページ、関係機関・団体やマスメディアの活用など）の検討 ・ 広報については最低 1 ヶ月前には実施、締め切りも余裕を持って設定 ・ 集客のための工夫（参加費用、景品など）
	・ 資料内容、資料提示方法の検討	・ 資料内容と伝承活動のテーマとの整合性の確認 ・ 資料の見せ方の検討（配布、掲示、PPT 上映など）
	・ 有効性検証方法の設計	・ 検証（確認）したい内容、検証方法（アンケート、ヒアリングなど）の検討 ・ 設問の設計 ・ 参加者に過度の負担を与えないよう考慮 ・ 伝承活動の実施効果を把握するためには事前事後の両方で実施することが望ましい
	・ イベントの取りまとめ方法の検討	・ 振り返りの会の実施、イベント開催結果報告チラシの作成など ・ マスメディアを通じた結果広報 ・ 事後に参加者等に実施結果をフィードバックすることで、伝承内容の定着、さらなる興味換気を狙う

③ 事前確認を行う（確認した内容は実施計画書に反映）	・ 会場の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予定参加者数、イベントの実施内容（例えば、パネル展示枚数、災害対策資機材の搬入可否など）を考慮し、広さ、映像・音響設備、什器や備品などの面で問題がないか確認 ・ 冷暖房の設備の状況、悪天候時の対応も考慮 ・ 会場内での飲食の可否を確認 ・ 会場の図面を入手。図面がなければ、写真撮影、採寸などにより、後刻会場レイアウト図が書けるような情報を収集 ・ 会場までのルートまた現地見学会の場合は、現地・ルートなどの確認
	・ 関係機関との調整	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施計画書の内容の確認 ・ 現地見学会の場合には、必要に応じて、関係機関担当者とともに現地・ルートなどの確認
	・ 備品の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場にある備品と新たに用意する必要のある備品の確認
	・ 参加者の安全確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨風対策、暑さ対策の検討 ・ 必要に応じてイベント参加者に配布する安全のしおりを作成（近くの病院、警察を確認） ・ イベント保険の適応など
④ 実施当日	・ 屋外の場合はイベントの開催可否を決定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予め参加者に悪天候時の対応、連絡方法について周知しておく ・ その周知方法に基づき、参加者、関係者への連絡を実施
	・ 会場設営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場レイアウトに基づき設営を実施 ・ 音響、映像設備については、事前に操作方法を確認 ・ パネル展などはより多くの人に見てもらうための見せ方の工夫
	・ 関係者との打合せ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当日の役割分担、タイムスケジュール、イベント実施上の留意事項の確認
⑤ 実施後	・ 開催結果の報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ HP や広報誌などを通じて開催の様子を参加者や地域へ発信する ・ 開催報告は肖像権に留意して作成する
	・ 次年度以降の取り組みについて協議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係者でイベント結果の振り返りを行うとともに、次年度以降の開催体制、内容、改善点について調整を行う

(3) 平成 20 年度の伝承試行実施の実例と計画設計の手順

①平成 20 年度天竜川上流域での伝承実施結果

伝承手法のうち平成 20 年度の天竜川上流域で実施にいたった 3 地区 5 手法の実施結果を以下に示す。5 手法については、伝承手法メニュー一覧のうち、有検討会での議論を考慮し有効性があると思われ、またイベント主催者等との調整を踏まえて決定した内容について実施をおこなった。

なお天竜川上流域では以下の 5 手法について行っているが、その他手法を用いた実施内容についても検討を行い、より地域にあった手法とする必要がある。

また災害教訓伝承を実施していく中では防災というテーマにあまり興味のない人により効果的に伝えていくことが重要となる。そのためには一般の人たちが興味のある「歴史・文化」といった内容を付加させ、興味のある内容から「防災」について触れるような視点が必要である。また災害が自分の生活と隣り合わせであるという認識をイベントに参加して感じてもらうことが大切である。

前項で説明したように災害教訓伝承実施の最終目標は有事の的確な判断・行動が出来るようになることである。そのためには、過去の災害や伝承などの知識を伝えるだけではなく、災害時にどのように行動するかを参加者に考えてもらうような内容を盛り込むことも重要な視点であると考えられる。今回の実施では、災害教訓伝承授業で防災マップを用いて避難行動について考えてもらう内容を行っているので参考にして頂きたい。

表 13 伝承実施結果のまとめ

地域 イベント名称	伊那市地域			駒ヶ根市～中川村地域	飯田市地域			
	災害教訓伝承授業	災害教訓伝承講座		天竜川の治水・洪水の伝承遺構見学会	災害教訓伝承パネル展示		天竜川防災カフェ	
		公民館連絡協議会 合同研修会	富県公民館歴史の 散策【予定】		赤十字奉仕団大会	飯田市安全大会		
1. 実施主体	・伊那小学校	・上伊那公民館連絡協議会	・富県公民館	・天竜川上流河川事務所	・飯田市	・飯田市	・飯田市美術博物館 ・天竜川上流河川事務所	
2. 連携団体等 (検討会事務局以外)	・織井代表(三峰川みらい会議) ・伊那市 ・災害体験者	—	—	・北澤信州大学名誉教授 ・中川村教育委員会 ・高森町歴史民俗資料館	—	—	・笹本信州大学教授 ・松島顧問(飯田市美術博物館) ・いいだFM	
3. 実施年月日	・平成20年11月～平成21年2月、延べ●回	・平成21年2月12日	・平成21年3月14日	・平成20年12月5日	・平成20年10月10日	・平成20年12月20日	平成20年11月29日	
4. 実施場所	・伊那小学校、災害教訓伝承現場	・伊那公民館	・伊那市近郊(災害の痕跡が残る場所)	・天竜川の河原(中川村、豊丘村、高森町)	・飯田市文化会館	・飯田市文化会館	・飯田市美術博物館	
5. テーマ・内容	・総合学習及び教科学習のテーマに「治水」「防災と社会」などを取り上げた授業を実施	・公民館の関係者を対象とした「天竜川の歴史と伝承」をテーマにした研修会および公民館講座を利用した現地見学会(予定)の実施		・理兵衛堤防や惣兵衛堤防などをめぐる見学会を開催し、実物を見ることにより災害教訓を伝承	・自治体で行われている防災イベントと連動して、防災に興味のある人たちに過去の災害について認識してもらう活動を実施		・防災に興味のない人たちが集まる場所で気軽に立ち寄れる防災イベントを開催	
6. 訴求対象 (参加人数)	子ども	◎(3～6年各約30名)					◎(約20名)	
	子育て世代・働き盛り世代・中高年層	△ ※家庭での話し合い		◎(予定50名)		◎(700名)	◎(約15名)	
	地域リーダー		◎(約50名)		◎(34名)			
7. 伝承手法 (ツール)	1)学習・教育	●(授業)						
	2)書物、出版物		●(災害教訓伝承小冊子)	●(災害教訓伝承小冊子)		●(災害教訓伝承小冊子)	●(災害教訓伝承小冊子)	
	3)紙芝居・カルタ等						●(カルタ)	
	4)聴講型イベント	●(災害体験談、防災対策) ※授業内で実施	●(災害体験談)					●(災害体験、伝説)
	5)野外体験型イベント	●(現地見学) ※授業内で実施	●(現地見学)	●(現地見学)	●(現地見学)			
	6)展示型イベント		●(パネル展示)			●(パネル展示)	●(パネル展示)	●(パネル展示)
	7)ビデオ・映画等	●(災害状況) ※授業内で実施	●(災害体験談)			●(災害体験談)	●(災害体験談)	
	8)マスメディア							●(いいだFM)
8. 期待した効果	無関心→気づき	★(低学年、高学年)	★	★			★(午後の部)	
	気づき→正しい理解	★(高学年)	★	★	★	★	★(午前の部)	
	正しい理解→的確な判断・行動				★			
9. 効果計測手法	・低学年:感想文、壁新聞などの学習成果 ・高学年:アンケート調査(事前・事後)	・アンケート調査	・アンケート調査	・アンケート調査 ・イベント参加者の感想(振り返りの会)	・アンケート調査	・アンケート調査	・アンケート調査	